



CHAPTER 3

Cisco Virtual Security Gateway の設定

ここでは、Cisco Nexus 1000V シリーズ スイッチおよび Cisco Nexus 1010 Virtual Services Appliance の Cisco Virtual Security Gateway (VSG) を設定する方法について説明します。

この章では、次の内容について説明します。

- 「Cisco VSG (レイヤ 2 モード) の VSM 上のポート プロファイルの設定」 (P.3-1)
- 「Cisco VSG (レイヤ 3 モード) の VSM 上のポート プロファイルの設定」 (P.3-3)
- 「vsn type コマンドによる Cisco VSG の設定」 (P.3-7)
- 「vPath のすべての Cisco VSG VSN の TCP ステートチェックの設定」 (P.3-8)
- 「Cisco VSG の設定の確認」 (P.3-10)
- 「次の作業」 (P.3-13)

Cisco Nexus 1000V シリーズ スイッチのポート プロファイルの詳細については、『*Cisco Nexus 1000V Port Profile Configuration Guide, Release 4.2(1)SVI(5.1)*』を参照してください。

Cisco VSG (レイヤ 2 モード) の VSM 上のポート プロファイルの設定

仮想スーパーバイザ モジュール (VSM) のポート プロファイルで vn-service パラメータを設定できません。

はじめる前に

設定手順を開始する前に、次の点を理解または実行しておく必要があります。

- Cisco VSG ソフトウェアをインストールし、基本インストールを完了します。詳細については、『*Cisco Virtual Security Gateway, Release 4.2(1)VSG1(3.1) and Cisco Virtual Network Management Center, Release 1.3 Installation and Upgrade Guide*』を参照してください。
- スイッチに NEXUS_VSG_SERVICES_PKG ライセンスをインストールする必要があります。保護対象の仮想イーサネット モジュール (VEM) の数に対して十分なライセンスがあることを確認してください。
- データ IP アドレスおよび管理 IP アドレスを設定します。データ IP アドレスを設定するには、『*Cisco Virtual Security Gateway, Release 4.2(1)VSG1(3.1) and Cisco Virtual Network Management Center, Release 1.3 Installation and Upgrade Guide*』を参照してください。

Cisco VSG (レイヤ 2 モード) の VSM 上のポート プロファイルの設定

- サービスおよびハイ アベイラビリティ (HA) インターフェイス用の Cisco VSG ポート プロファイルの作成を完了します。「Cisco VSG 設定時の注意事項および制限事項」(P.6-2) を参照してください。
- EXEC モードでスイッチ CLI にログインします。

手順の概要

1. **configure**
2. **port-profile port-profile-name**
3. **org org-name**
4. **vn-service ip-address ip-address vlan vlan-id [fail {open | close}] [security-profile security-profile-name]**
5. (任意) **copy running-config startup-config**
6. **exit**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	configure Example: n1000v# configure n1000v(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードに切り替えます。
ステップ2	port-profile port-profile-name Example: n1000v(config-port-prof)# port-profile host-profile n1000v(config-port-prof)#	名前付きポート プロファイルのポート プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。ポート プロファイルがない場合は、次の特性を使用して作成されます。 <i>port-profile-name</i> : ポート プロファイルの名前は最大 80 文字の英数字で、Cisco VSG 上の各ポート プロファイルに対して一意である必要があります。
ステップ3	org org-name Example: n1000v(config-port-prof)# org root/Tenant-A n1000v(config-port-prof)#	Cisco VSG ポート プロファイルの組織名を指定します。
ステップ4	vn-service ip-address ip-address vlan vlan-id [fail {open close}] [security-profile security-profile-name] Example: n1000v(config-port-prof)# vn-service ip 100.1.1.100 vlan 1000 profile vnsp-1 n1000v(config-port-prof)#	Cisco VSG の IP アドレス、VLAN ID、およびプロファイルを設定します。オプションでフェールセーフの設定が可能です。 (注) IP アドレスは、Cisco VSG のデータ インターフェイス (data0) IP アドレスと一致する必要があります。 (注) セキュリティ プロファイルの名前を指定しない場合は、デフォルトの名前が使用されます。セキュリティ プロファイルの名前は、Cisco VSG で作成されたセキュリティ プロファイルと一致する必要があります。

	コマンド	目的
ステップ 5	copy running-config startup-config Example: n1000v(config-port-prof)# copy running-config startup-config n1000v(config-port-prof)#	(任意) コンフィギュレーションの変更を保存します。
ステップ 6	exit Example: n1000v(config-port-prof)# exit n1000v(config)#	コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

Cisco VSG (レイヤ 3 モード) の VSM 上のポート プロファイルの設定

仮想スーパーバイザ モジュール (VSM) のポート プロファイルで `vn-service` パラメータを設定できません。

はじめる前に

この手順を開始する前に、次のことを確認または実行してください。

- Cisco VSG ソフトウェアをインストールし、基本インストールを完了します。詳細については、『*Cisco Virtual Security Gateway, Release 4.2(1)VSG1(3.1) and Cisco Virtual Network Management Center, Release 1.3 Installation and Upgrade Guide*』を参照してください。
- スイッチに `NEXUS_VSG_SERVICES_PKG` ライセンスをインストールする必要があります。保護対象の仮想イーサネット モジュール (VEM) の数に対して十分なライセンスがあることを確認してください。
- データ IP アドレスおよび管理 IP アドレスを設定します。データ IP アドレスを設定するには、『*Cisco Virtual Security Gateway, Release 4.2(1)VSG1(3.1) and Cisco Virtual Network Management Center, Release 1.3 Installation and Upgrade Guide*』を参照してください。
- VEM がレイヤ 3 モードの Cisco VSG と通信する場合は、元の packets に 94 バイトの追加ヘッダーが追加されます。トラフィックが Cisco Nexus 1000V と Cisco VSG の間を通過するネットワーク インターフェイス用のこの拡張ヘッダーに対応するために、MTU を少なくとも 1594 バイトに設定しておく必要があります。これらのインターフェイスには、アップリンク ポート プロファイル、プロキシ ARP ルータ、仮想スイッチまたは他のインターフェイスを含めることができます。
- ジャンボ フレームがネットワーク内でイネーブルの場合は、クライアントおよびサーバ VM の MTU を、アップリンク ポート プロファイル MTU より少なくとも 94 バイト小さく設定する必要があります。たとえば、アップリンク ポート プロファイル MTU が 9000 バイトに設定されている場合は、VM の MTU は 8906 バイト以下でなければなりません。
- サービスおよびハイ アベイラビリティ (HA) インターフェイス用の Cisco VSG ポート プロファイルの作成を完了します。詳細については、「[Cisco VSG 設定時の注意事項および制限事項 \(P.6-2\)](#)」を参照してください。
- EXEC モードでスイッチ CLI にログインします。

手順の概要

1. **configure**
2. **port-profile** *port-profile-name*
3. **org** *org-name*
4. **vn-service ip-address** *ip-address* **l3-mode** [**fail** {**open** | **close**}] [**security-profile** *security-profile-name*]
5. (任意) **copy running-config startup-config**
6. **exit**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	configure Example: n1000v# configure n1000v(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードに切り替えます。
ステップ2	port-profile <i>port-profile-name</i> Example: n1000v(config-port-prof)# port-profile host-profile n1000v(config-port-prof)#	名前付きポート プロファイルのポート プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。ポート プロファイルがない場合は、次の特性を使用して作成されます。 <i>port-profile-name</i> : ポート プロファイルの名前は最大 80 文字の英数字で、Cisco VSG 上の各ポート プロファイルに対して一意である必要があります。
ステップ3	org <i>org-name</i> Example: n1000v(config-port-prof)# org root/Tenant-A n1000v(config-port-prof)#	Cisco VSG ポート プロファイルの組織名を指定します。
ステップ4	vn-service ip-address <i>ip-address</i> l3-mode [fail { open close }] [security-profile <i>security-profile-name</i>] Example: n1000v(config-port-prof)# vn-service ip 100.1.1.100 l3-mode profile vnsp-1 n1000v(config-port-prof)#	Cisco VSG の IP アドレス、レイヤ 3 モード、およびポート プロファイルを設定します。オプションでフェールセーフの設定が可能です。 (注) IP アドレスは、Cisco VSG のデータ インターフェイス (data0) IP アドレスと一致する必要があります。 (注) セキュリティ プロファイルの名前を指定しない場合は、デフォルトの名前が使用されます。セキュリティ プロファイルの名前は、Cisco VSG で作成されたセキュリティ プロファイルと一致する必要があります。

	コマンド	目的
ステップ 5	copy running-config startup-config Example: n1000v(config-port-prof)# copy running-config startup-config n1000v(config-port-prof)#	(任意) コンフィギュレーションの変更を保存します。
ステップ 6	exit Example: n1000v(config-port-prof)# exit n1000v(config)#	コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

レイヤ 3 モード VSG カプセル化のための vmknic の設定

次の手順を実行することにより、レイヤ 3 モードでカプセル化された Cisco VSG の vmknic を設定できます。

はじめる前に

この手順を開始する前に、次のことを確認または実行してください。

- レイヤ 3 モードでカプセル化されたトラフィックで Cisco VSG の転送に使用する VLAN を識別します。レイヤ 3 モードの Cisco VSG を設定できるすべての VEM のアップリンク ポート プロファイルに VLAN が設定されていることを確認してください。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **port-profile *profilename***
3. **vmware port-group *name***
4. **switchport mode access**
5. **switchport access vlan *id***
6. **capability l3-vn-service**
7. **no shutdown**
8. **state enabled**
9. (任意) **show port-profile name *profilename***
10. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	configure terminal Example: switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	port-profile profilename Example: switch(config)# port-profile vmknic-pp switch(config-port-prof)	名前付きポート プロファイルのポート プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。ポート プロファイルがない場合は、次の特性を使用して作成されます。 <ul style="list-style-type: none"> • profilename : ポート プロファイルの名前は最大 80 文字で、Cisco Nexus 1000V 上の各ポート プロファイルに対して一意である必要があります。 (注) ポート プロファイルを Ethernet タイプとして設定すると、VMware 仮想ポートの設定には使用できなくなります。
ステップ3	vmware port-group name Example: switch(config-port-prof)# vmware port-group switch(config-port-prof)#	ポート プロファイルを VMware ポート グループとして指定します。 ポート プロファイルは、名前を指定しない場合、同じ名前の VMware ポート グループにマッピングされます。vCenter Server に VSM を接続すると、ポート グループが vCenter Server 上の仮想スイッチに配信されます。
ステップ4	switchport mode access Example: switch(config-port-prof)# switchport mode access switch(config-port-prof)#	インターフェイスがスイッチ アクセス ポート (デフォルト) であることを指定します。
ステップ5	switchport access vlan id Example: switch(config-port-prof)# switchport access vlan 100 switch(config-port-prof)	このポート プロファイルに VLAN ID を割り当てます。
ステップ6	capability l3-vn-service Example: switch(config-port-prof)# capability l3-vn-service switch(config-port-prof)	capability l3-vn-service をポート プロファイルに割り当て、レイヤ 3 モードでカプセル化されたトラフィックでこのポート プロファイルを継承するインターフェイスが Cisco VSG の送信元として使用されるようにします。
ステップ7	no shutdown Example: switch(config-port-prof)# no shutdown switch(config-port-prof)	管理上の目的でポート内すべてのポートをイネーブルにします。

	コマンド	目的
ステップ8	state enabled Example: switch(config-port-prof)# state enabled switch(config-port-prof)	ポート プロファイルの動作ステータスを設定します。
ステップ9	show port-profile name profilename Example: switch# show port-profile vmknic-pp	(任意) ポート プロファイルの設定を表示します。
ステップ10	copy running-config startup-config Example: switch# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

vsn type コマンドによる Cisco VSG の設定

Cisco VSG は仮想サービス ノード (VSN) です。Cisco VSG の VSN が機能するように設定するには、**vsn type vsg global** コマンドを使用して Cisco VSG のグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

はじめる前に

この手順を開始する前に、次のことを確認または実行してください。

- Cisco VSG ソフトウェアをインストールし、基本インストールを完了します。詳細については、『*Cisco Virtual Security Gateway, Release 4.2(1)VSG1(3.1) and Cisco Virtual Network Management Center, Release 1.3 Installation and Upgrade Guide*』を参照してください。
- スイッチに NEXUS_VSG_SERVICES_PKG ライセンスをインストールする必要があります。保護対象の VEM の数に対して十分なライセンスがあることを確認してください。
- データの IP アドレスおよび管理 IP アドレスを設定する必要があります。データ IP アドレスを設定するには、『*Cisco Virtual Security Gateway, Release 4.2(1)VSG1(3.1) and Cisco Virtual Network Management Center, Release 1.3 Installation and Upgrade Guide*』を参照してください。
- サービスおよび HA インターフェイス用の Cisco VSG ポート プロファイルの作成を完了します。
- EXEC モードでスイッチ CLI にログインします。

手順の概要

1. **configure**
2. **vsn type vsg global**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	configure Example: vsm# configure vsm(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードに切り替えます。
ステップ2	vsn type vsg global Example: vsm(config)# vsn type vsg global vsm(config-vsn)#	VSN コンフィギュレーション モードを開始します。

vPath のすべての Cisco VSG VSN の TCP ステートチェックの設定

vPath 機能上の Cisco VSG の TCP ステートチェックはデフォルトでイネーブルです。ただし、この機能によって生成された情報が、特に関心のあるその他の情報を隠さないようにする場合など、この機能をディセーブルしたいことがあります。

はじめる前に

この手順を開始する前に、次のことを確認または実行してください。

- Cisco VSG ソフトウェアをインストールし、基本インストールを完了します。詳細については、『*Cisco Virtual Security Gateway, Release 4.2(1)VSG1(3.1) and Cisco Virtual Network Management Center, Release 1.3 Installation and Upgrade Guide*』を参照してください。
- スイッチに NEXUS_VSG_SERVICES_PKG ライセンスをインストールする必要があります。保護対象の VEM の数に対して十分なライセンスがあることを確認してください。
- データの IP アドレスおよび管理 IP アドレスを設定する必要があります。データ IP アドレスを設定するには、『*Cisco Virtual Security Gateway, Release 4.2(1)VSG1(3.1) and Cisco Virtual Network Management Center, Release 1.3 Installation and Upgrade Guide*』を参照してください。
- サービスおよび HA インターフェイス用の Cisco VSG ポートプロファイルの作成を完了します。
- EXEC モードでスイッチ CLI にログインします。

手順の概要

1. **configure**
2. **vsn type vsg global**
3. **tcp state-checks**
4. **no tcp state-checks**
5. **exit**
6. **exit**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	configure Example: vsm# configure vsm(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードに切り替えます。
ステップ2	vsn type vsg global Example: vsm(config)# vsn type vsg global vsm(config-vsn)#	VSN コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	tcp state-checks Example: vsm(config-vsn)# tcp state-checks vsm(config-vsn)#	vPath のすべての Cisco VSG VSN で TCP ステートチェックをイネーブルにします。(これはデフォルトステータスです)。
ステップ4	no tcp state-checks Example: vsm(config-vsn)# no tcp state-checks vsm(config-vsn)#	TCP ステートチェック機能をディセーブルにします。
ステップ5	exit Example: vsm(config-vsn)# exit vsm(config)#	VSN コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ6	exit Example: vsm(config)# exit vsm#	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、EXEC モードに戻ります。

Cisco VSG の設定の確認

Cisco VSG に関する情報を表示するために、スイッチ CLI 上で次のいずれかの作業を実行します。

コマンドの表示

コマンド	目的
show license usage Example: vsm# show license usage	Cisco Nexus 1000V シリーズ スイッチの Cisco VSG ライセンスの使用状況が記載された表を表示します。
show license usage NEXUS_VSG_SERVICES_PKG Example: vsm# show license usage NEXUS_VSG_SERVICES_PKG	ライセンス パッケージ NEXUS_VSG_SERVICES_PKG の使用状況を表示します。
show vsn {statistics brief {detail [{{vlan vlan-num [ip ip-addr]} module module-num}}]} Example: vsm# show vsn statistics detail vlan 1	設定、MAC アドレス、関連する Cisco VSG および仮想イーサネット モジュール (VEM) のステート、Cisco VSG がバインドされた仮想イーサネット インターフェイス (vEths)、および Cisco VSG に関連するすべての VEM モジュールの仮想サービス ノード (VSN) の統計情報に関する情報を表示します。

これらのコマンド出力のフィールドの詳細については、『*Cisco Nexus 1000V Command Reference, Release 4.2(1)SV1(5.1)*』を参照してください。

レイヤ 2 モードの vPath ping コマンド

Cisco VSG VSN のさまざまな接続や到達可能属性を確認するには、vPath ping コマンドを使用できます。

レイヤ 2 モードの vPath ping コマンドの構文は次のとおりです。

```
ping vsn {all | {ip ip-addr [vlan vlan-num]}} src-module {all | vpath-all | module-num} [timeout secs] [count {count | unlimited}]
```

例

次に、VSN 接続を確認する方法を示します (到達可能な場合)。

```
VSM-1# ping vsn all src-module all
ping vsn 106.1.1.1 vlan 54 from module 3 5, seq=0 timeout=1-sec
  module(usec) : 3(156) 5(160)
ping vsn 110.1.1.1 vlan 54 from module 3 5, seq=0 timeout=1-sec
  module(failed) : 3(VSN ARP not resolved) 5(VSN ARP not resolved)

ping vsn 106.1.1.1 vlan 54 from module 3 5, seq=1 timeout=1-sec
  module(usec) : 3(230) 5(151)
ping vsn 110.1.1.1 vlan 54 from module 3 5, seq=1 timeout=1-sec
  module(failed) : 3(VSN ARP not resolved) 5(VSN ARP not resolved)

ping vsn 106.1.1.1 vlan 54 from module 3 5, seq=2 timeout=1-sec
  module(usec) : 3(239) 5(131)
```

```

ping vsn 110.1.1.1 vlan 54 from module 3 5, seq=2 timeout=1-sec
  module(failed) : 3(VSN ARP not resolved) 5(VSN ARP not resolved)

ping vsn 106.1.1.1 vlan 54 from module 3 5, seq=3 timeout=1-sec
  module(used)   : 3(248) 5(153)
ping vsn 110.1.1.1 vlan 54 from module 3 5, seq=3 timeout=1-sec
  module(failed) : 3(VSN ARP not resolved) 5(VSN ARP not resolved)

ping vsn 106.1.1.1 vlan 54 from module 3 5, seq=4 timeout=1-sec
  module(used)   : 3(259) 5(126)
ping vsn 110.1.1.1 vlan 54 from module 3 5, seq=4 timeout=1-sec
  module(failed) : 3(VSN ARP not resolved) 5(VSN ARP not resolved)

```

次に、VSN ping オプションが表示される例を示します。

```

VSM-1# ping vsn ?
all    All VSNs associated to VMs
ip     IP Address
vlan   VLAN Number

```

次に、VSN ping オプションがすべての送信元モジュールに表示される例を示します。

```

VSM-1# ping vsn all src-module ?
<3-66>      Module number
all         All modules in VSM
vpath-all  All modules having VMs associated to VSNs

```

次に、指定した IP アドレスからのすべての送信元モジュールに ping をセットアップする例を示します。

```

VSM-1# ping vsn ip 10.1.1.60 src-module all
ping vsn 10.1.1.60 vlan 501 from module 4 5 7, seq=0 timeout=1-sec
  module(used)   : 4(301) 5(236)
  module(failed) : 7(VSN ARP not resolved)

ping vsn 10.1.1.60 vlan 501 from module 4 5 7, seq=1 timeout=1-sec
  module(used)   : 4(241) 5(138) 7(270)

ping vsn 10.1.1.60 vlan 501 from module 4 5 7, seq=2 timeout=1-sec
  module(used)   : 4(230) 5(155) 7(256)

ping vsn 10.1.1.60 vlan 501 from module 4 5 7, seq=3 timeout=1-sec
  module(used)   : 4(250) 5(154) 7(284)

ping vsn 10.1.1.60 vlan 501 from module 4 5 7, seq=4 timeout=1-sec
  module(used)   : 4(231) 5(170) 7(193)

```

次に、指定した IP アドレスのすべての Vpath 送信元モジュールに ping をセットアップする例を示します。

```

VSM-1# ping vsn ip 10.1.1.60 src-module vpath-all
ping vsn 10.1.1.60 vlan 501 from module 4 5, seq=0 timeout=1-sec
  module(used)   : 4(223) 5(247)

ping vsn 10.1.1.60 vlan 501 from module 4 5, seq=1 timeout=1-sec
  module(used)   : 4(206) 5(167)

ping vsn 10.1.1.60 vlan 501 from module 4 5, seq=2 timeout=1-sec
  module(used)   : 4(241) 5(169)

```

次に、指定した IP アドレスのすべての送信元モジュールに、タイムアウトおよびカウントとともに ping をセットアップする例を示します。

```

VSM-1# ping vsn ip 10.1.1.60 src-module all timeout 2 count 3
ping vsn 10.1.1.60 vlan 501 from module 4 5 7, seq=0 timeout=2-sec

```

```

module(usec)      :  4(444)  5(238)  7(394)

ping vsn 10.1.1.60 vlan 501 from module 4 5 7, seq=1 timeout=2-sec
module(usec)      :  4(259)  5(154)  7(225)

ping vsn 10.1.1.60 vlan 501 from module 4 5 7, seq=2 timeout=2-sec
module(usec)      :  4(227)  5(184)  7(216)

```

レイヤ 3 モードの vPath ping コマンド

例

```

vsm# ping vsn ip 10.1.1.40 src-module vpath-all
ping vsn 10.1.1.40 vlan 0 from module 9 11 12, seq=0 timeout=1-sec
module(usec)      :  9(698) 11(701) 12(826)

ping vsn 10.1.1.40 vlan 0 from module 9 11 12, seq=1 timeout=1-sec
module(usec)      :  9(461) 11(573) 12(714)

ping vsn 10.1.1.40 vlan 0 from module 9 11 12, seq=2 timeout=1-sec
module(usec)      :  9(447) 11(569) 12(598)

ping vsn 10.1.1.40 vlan 0 from module 9 11 12, seq=3 timeout=1-sec
module(usec)      :  9(334) 11(702) 12(559)

ping vsn 10.1.1.40 vlan 0 from module 9 11 12, seq=4 timeout=1-sec
module(usec)      :  9(387) 11(558) 12(597)

vsm#

vsm# ping vsn all src-module all
ping vsn 10.1.1.44 vlan 501 from module 9 10 11 12, seq=0 timeout=1-sec
module(usec)      :  9(508)
module(failed)    : 10(VSN ARP not resolved) 11(VSN ARP not resolved)
                  12(VSN ARP not resolved)
ping vsn 10.1.1.40 vlan 0 from module 9 10 11 12, seq=0 timeout=1-sec
module(usec)      :  9(974) 11(987) 12(1007)
module(failed)    : 10(VSN ARP not resolved)

ping vsn 10.1.1.44 vlan 501 from module 9 10 11 12, seq=1 timeout=1-sec
module(usec)      :  9(277) 10(436) 11(270) 12(399)
ping vsn 10.1.1.40 vlan 0 from module 9 10 11 12, seq=1 timeout=1-sec
module(usec)      :  9(376) 10(606) 11(468) 12(622)

ping vsn 10.1.1.44 vlan 501 from module 9 10 11 12, seq=2 timeout=1-sec
module(usec)      :  9(272) 10(389) 11(318) 12(357)
ping vsn 10.1.1.40 vlan 0 from module 9 10 11 12, seq=2 timeout=1-sec
module(usec)      :  9(428) 10(632) 11(586) 12(594)

ping vsn 10.1.1.44 vlan 501 from module 9 10 11 12, seq=3 timeout=1-sec
module(usec)      :  9(284) 10(426) 11(331) 12(387)
ping vsn 10.1.1.40 vlan 0 from module 9 10 11 12, seq=3 timeout=1-sec
module(usec)      :  9(414) 10(663) 11(644) 12(698)

ping vsn 10.1.1.44 vlan 501 from module 9 10 11 12, seq=4 timeout=1-sec
module(usec)      :  9(278) 10(479) 11(334) 12(469)
ping vsn 10.1.1.40 vlan 0 from module 9 10 11 12, seq=4 timeout=1-sec
module(usec)      :  9(397) 10(613) 11(560) 12(593)

```

vsm#

次の作業

保護スイッチ上の Cisco VSG ポート プロファイルの設定を完了したら、vCenter 上の Cisco VSG ファイアウォール保護用 VM へのポート プロファイルの割り当てに進みます。

